

下高井戸塚山遺跡出土局部磨製石斧・ナイフ形石器



局部磨製石斧



ナイフ形石器



〔指定年月日〕 局部磨製石斧 昭和六三年三月三十一日
 ナイフ形石器 平成二年三月三十一日
 〔種別〕 有形文化財（考古資料）
 〔名称〕 下高井戸塚山遺跡出土
 局部磨製石斧・ナイフ形石器
 〔点数〕 二点
 〔所有者等〕 杉並区教育委員会
 〔所在地等〕 大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

下高井戸塚山遺跡出土 局部磨製石斧・ナイフ形石器

本石器は、昭和六〇年度（一九八五）に実施した下高井戸塚山遺跡発掘調査において出土したもので、局部磨製石斧は昭和六三年度（一九八八）、ナイフ形石器は平成二年度（一九九〇）にそれぞれ指定されたものである。

局部磨製石斧は、素材となる石を打ち欠いて作った打製石斧の一部を人為的に磨いた石器で、本資料では、刃部の一部が磨かれている。長さ九・四cm、幅三・四cm、厚さ二・八cmを測り、石質は凝灰質砂岩である。ナイフ形石器は、名称が示すとおり切り出しナイフの形を呈する石器で、長さ四・七cm、幅一・九cm、厚さ一・〇cmを測り、石質は凝灰質砂岩である。

両石器とも、立川ローム第Ⅹ層下部からの出土で、武蔵野台地上で最古の石器として注目されている。石器から直接年代を定めることはできないが、石器が出土した地層に着目すると、区内、高井戸東遺跡において第Ⅹ層の上位に堆積する地層である第Ⅸ層を対象に実施された放射性炭素年代測定の結果では、第Ⅸ層は約二六〇〇年前の地層とされている。本資料が出土した第Ⅹ層下部は第Ⅸ層よりも古い地層であり、高井戸東遺跡の分析結果から類推すると、地層が堆積した年代は約三〇〇〇年前と推定される。

局部磨製石斧はその伝播系譜・発展を知るうえで、またナイフ形石器はその発生・伝播を知るうえで注目されるプロト

タイプの石器として貴重な資料と言えますよう。

【文化財所在地】

